

「野鳥園臨港緑地干潟・湿地環境保全事業」平成 27 年度事業計画書

1 事業実施スケジュール

実施事業	平成 27 年 (2015 年)										平成 28 年 (2016 年)			計
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
(1) 干潟・湿地の保全														
環境調査														
① 鳥類調査	4	4			4	4	2		1	1	1	2	23	
② 底生生物調査				1								1	2	
③ 干潟現況調査				1								1	2	
④ 干潟再生プロジェクト				1								1	2	
干潟・湿地の清掃と除草														
① 漂着ごみ回収除去		1						1					2	
② ヨシ刈り等				1								1	2	
(2) 環境学習														
① 野鳥のガイド	4	4	2	2	4	4	4	3	2	2	2	3	36 ^{注1)}	
② 環境学習会		1	1	1	1	1				1		1	7	
(3) 催事	←-----→													
(4) 広報、啓発等	←-----→													
(5) 事業実施に向けての準備活動	←-----→													

注1) 仕様書では、11～3月に16日実施となっているが、12月～2月は野鳥の種類も個体数も少ないため、それ以外の月の野鳥ガイド日数を増やし、年間の実施回数を36日に調整した。

2 本年度の事業目標

(1) 渡り鳥が多く利用する野鳥園の存在を知ってもらうための環境学習を企画実施し、市民利用施設としての機能充実を図る。

① 野鳥ガイドの育成および新たな人材発掘

今年度から野鳥ガイドとなった人を対象に、野鳥の生態・形態・生理などの勉強会、野鳥園の干潟や湿地で生活する生き物の観察などを随時行い、野鳥ガイドの育成とともに新たな人材発掘を図る。野鳥ガイドの充実化により、来園者や各種観察会参加者の対応の活性化をすすめる。

② 環境学習プログラムの幅を広げ、野鳥とそれを支える生きもののことを伝える

野鳥だけでなく、干潟の生きもの、湿地の植物の観察まで幅広いプログラムを企画実施し、野鳥園の干潟や湿地の生きものの豊かさやつながりをわかりやすく理解してもらおう。また、昼間だけでなく、夜間の生きもの観察会を実施し、様々な生きものの知られざる姿を楽しんでもらうプログラムを実施する。

野鳥園のことや渡り鳥のことを知らない人(地域住民やはじめて野鳥を観察する人)を対象とした環境学習プログラムを企画・実施する。

特別企画として、大阪市民対象に「歴史を歩こう会」(自然干潟のあった住吉大社前から野鳥園までを歴史をふり振り返りながら歩く)なども準備したい。

(2) 鳥類とくにシギ・チドリ類やそれを支える干潟の生きものにとって、野鳥園の湿地・干潟を生活しやすい場所として十分に機能させるために、現在の環境を生きものの視点から正確に評価し、どのように手入れすればいいのかを検討する。

- ① シギ・チドリ類が、繁殖地へ北上する春（4～5月）と繁殖地から南下する秋（8～9月）に、その好みの食性に応じて、シロチドリ、メダイチドリ、トウネン、ハマシギ、キアシシギ、チュウシャクシギなどが干潟をどのように利用し、何を食べているかを判断基準として、過去のデータと比較して評価する。
- ② 野鳥園に渡来する小型のシギ・チドリ類の重要な餌生物であるヨコエビ類（野鳥園の干潟表層を代表する餌生物）の個体数が1平方メートルあたり何匹生息するかを定量し、過去のデータと比較して評価する。
- ③ 「干潟再生プロジェクトチーム」（仮称）を結成し、干潟の悪化状況（干潟表層の有機物堆積層の激減と砂質化による底生生物の量的減少）とそれによる影響の紹介、現場視察、その改善策の検討という内容のラウンドテーブルを実施する（2回程度）。構成予定メンバーは、各分野の専門家、NPO 法人南港ウェットランドグループ、および大阪市港湾局とする。

3 事業実施計画

(1) 干潟・湿地の保全

【環境調査】

① 鳥類調査

（実施時期）2015 年年 4 月～2016 年年 3 月（計 23 回）

（調査方法）展望塔と北観察所を拠点に 1 日を通しての個体数の変化（種別最大渡来数の記録）、干潟・湿地の利用状況、採食行動などを調査シートに記録する。

（調査要員）1～2 名

（その他）大阪府一斉ガンカモ調査（1 月）、環境省調査（モニタリングサイト 1000）への情報提供

② 底生生物調査

（実施時期）2015 年年 7 月および 2016 年年 3 月（2 回）

（調査方法）底生生物の生息分布状況を調査し、後日、採取標本を同定する。

（調査要員）2 名以上

③ 干潟現況調査

（実施時期）底生生物調査時（鳥類調査時には干出状況を記録）

（調査方法）底生生物の調査と並行して実施する。底質（固さ、酸化還元状態、表面の有機物堆積層の状況）、水の流れ（滞筋の状況、導水管と捨石護岸からの水の出入り）、過去と比べて変化した環境の記録・写真撮影する。

（調査要員）2 名以上

④ 干潟再生プロジェクトチーム（仮称）による干潟改善策の協議

（実施時期）年 2 回（休館日、野鳥園で実施）

（実施内容）今年度は現状を把握すること、および手入れの方策を考えること。そのために、湿地・干潟の現場視察とこれまでの調査結果の説明を行う。

(対象要員) NPO 調査担当者、港湾局、野鳥園の調査に関わってきた専門家など

(目 標) NPO や港湾局だけでなく、市民と一緒に参加して様々な手入れを行って
けるプロジェクトとする。そのことによって、多くの市民に野鳥園の干潟・
湿地が、渡り鳥とくにシギ・チドリ類にどれだけ大切かを身近に感じてもら
い、将来にわたって市民と共に干潟・湿地を保全することにつなげたい。

【干潟・湿地の清掃及び除草】

① 漂着ゴミの回収と除去作業

(実施時期) 5月および11月

(実施方法) 干潟・湿地への漂着ゴミ等の状況と野鳥への影響が少ない時期をみて、行政
や市民との協働でゴミ除去作業を実施する。

(実施要員) 3～5名

CSR を活用 (ボランティア約 100～200 人)

② 除草 (ヨシ刈り等)

(実施時期) 随時

(実施方法) 展望塔から野鳥を観察しやすいように、シギ・チドリ類の渡来時期の前に、
干潟・湿地の生きものの生息環境に配慮しながらヨシ刈りを実施する。

(実施要員) 2～4名

(2) 環境学習

① 野鳥ガイド

(実施時期) 原則として日曜 (10時～15時、昼休憩1時間) に実施 (年間36回)。
(但し、ガイド時間は干潮時刻の状況により変更する)

(実施方法) 野鳥ガイドが、20倍以上の観察器具 (望遠鏡) を使用して、野鳥園の展望
塔や北観察所から見える様々な野鳥について来園者や団体に説明する。

(実施要員) 2名以上

② 野鳥の観察会および環境学習会

ア 野鳥の会大阪支部の定例探鳥会との連携

(実施内容) 日本野鳥の会大阪支部の南港野鳥園定例探鳥会のサポートを行う。

(実施時期) 毎月第4日曜日

(実施要員) 2名以上

イ 野鳥の観察会

(実施内容) 野鳥観察会<はじめての野鳥ウォッチ> (はじめて野鳥を見る方を対象に、
野鳥観察の楽しみ方や野鳥園のことを知ってもらう機会とする)

(実施時期) 5月に1回、8～9月に1回

(実施要員) 4名以上

ウ 野鳥ガイド養成講座

(実施内容) 野鳥ガイド養成講座の2回目および3回目を実施する。

(実施時期) 4月19日、4月25日

(実施要員) 3名(19日:1名、25日:2名)

エ 野鳥ガイドのフォローアップ研修と新たなガイドの育成

(実施内容) 野鳥ガイドに登録された人材のアフター研修と新たな人材開拓を目的に、様々なテーマでの勉強会をおこなう。

(実施時期) 7月以降に随時実施

(実施要員) 3名以上

オ 夏の夜のアカテガニ観察会の実施

(実施内容) 夏の大潮の時期、園内の林から池に仔を放つためにやってくるアカテガニの観察を行う。(対象: 市民だけでなく、大阪市内の教員にも呼びかけ)

(実施時期) 7または8月

(実施要員) 4名

カ 冬の夜のカモ類観察会の実施

(実施内容) 日没後に展望塔から、園内の池に帰ってくるカモ類の観察を行うと同時に、冬の星座の観察会を、日本野鳥の会大阪支部との共催で実施する。

(実施時期) 2016年1月末

(実施要員) 4名

キ 干潟の生きもの観察会

(実施内容) 干潟に入って、ハクセンシオマネキなどの野鳥園の干潟の生きもの観察を行う。

(実施時期) 6月(予定)

(実施要員) 4名

ク 湿地の植物観察会

(実施内容) 南港の植物調査グループと連携で、湿地に入って植物の観察を行う。

(実施時期) 6~7月(予定)

(実施要員) 4名

(3) 広報、啓発等

① 野鳥園のホームページによる広報・啓発

- ・最新の野鳥飛来状況
- ・野鳥ガイド実施日の告知
- ・様々な観察会の開催日や申し込み方法の告知

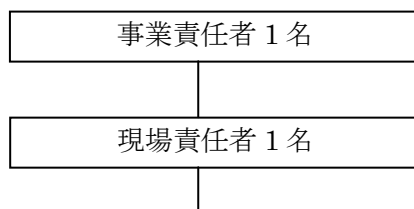
- ・ 環境保全のための作業日の告知とその報告
- ② 展望塔内の展示スペースを活用した来園者への広報・啓発
- ・ シギ・チドリ類などの渡り鳥のこと、野鳥園の干潟・湿地の環境などをわかりやすく知ることができるようなポスターなどの作成と掲示する。
 - ・ もう少し深く知りたい人のために、科学的な調査データをわかりやすく説明したポスターも掲示する。
 - ・ 野鳥ガイド実施日／観察会の実施日の掲示（毎月）
 - ・ 市民等が撮影した野鳥写真を季節に応じて掲示する。
 - ・ 展望塔の机に、季節に応じたわかりやすい野鳥識別ガイドを掲示し、机上には野鳥園で見られる野鳥の下敷きを置く。
- ③ ホームページや展望塔内の掲示以外での情報提供
- ・ 野鳥ガイド実施日や観察会の開催と内容などの情報をより広く告知するために、区政だより、地元ミニコミ誌、メルマガ、新聞、園内の野鳥ガイドが配布するちらしなどによって情報を提供する。
- (4) トータルコーディネーター**
- 事業をトータルコーディネートするコアメンバーが、環境調査の設計・管理・指示、環境学習の企画と内容設計、広報・啓発、調査結果の内容、各事業の実施経過からの改善すべき点などを毎月協議し検討する。それによって、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、干潟・湿地環境の保全ができるようにする。
- (5) 催事等の事業**
- ・ 協働事業として、港湾局とともに企業をまわり、連携での催事の打診、時期、内容などについて協議する。
 - ・ アウトドアメーカーの場合、春夏の繁忙期よりも冬期での催事を野鳥園内の緑地を使っての実施する内容などを打診する。
- (6) 教員対象の環境学習プログラムの準備活動**
- ・ 生物多様性を言葉でなく実際に体験学習できる場である野鳥園を学校の環境教育に活用してもらえるように、市内小・中学校等の教員を対象に、野鳥園を活用した環境学習会や施設見学会に向けた取り組みの企画を準備する。
- (7) NPO 法人南港ウェットランドグループと大阪市港湾局の定例会議（毎月 1 回実施）**
- ・ 前月の事業報告・今後の事業予定の報告。
 - ・ 業者に業務委託されている植栽管理や除草などの予定などの確認。
 - ・ 協働事業で行う内容とその進め方についての検討。
 - ・ 今後の課題などの協議。

4 事業実施体制

(1) 要員配置

本事業を実施するにあたり、事業責任者 1 名、現場責任者 1 名を配置し、各事業実施には次のとおり要員を配置する。

要員配置にあたっては、関係団体等と連携し要員確保のうえ配置する。



実施事業	実施要員	備考
(環境調査)		
①鳥類調査	1~2名	
②底生生物調査	2名以上	
③干潟現況調査	2名以上	
(干潟・湿地の清掃及び除草)		
①漂着ごみの回収と除去作業	3名	CSR を活用 (ボランティア約 100 人)
②ヨシ刈り等除草	2名	
(環境学習)		
①野鳥ガイド	2名	原則として日曜日
②環境学習会及び探鳥会	4名	日本野鳥の会大阪支部等他団体と連携
(その他催事)	適宜	
(広報、啓発等)	適宜	
(事業実施に向けての準備活動)	4名	行政と連携

(2) 関係団体 等

- ・ 日本野鳥の会大阪支部
- ・ 日本野鳥の会ひょうご
- ・ NPO 法人日本バードレスキュー協会
- ・ (公社) 大阪自然環境保全協会
- ・ 行政 (大阪市港湾局、住之江区役所)

以上